

図書館だより 6・7月

合併号

編集・発行：岩手県立大学 教育研究支援室 図書グループ PR誌第11号
TEL:019-694-2070 FAX:019-694-2071 2010年6月発行

特集1：教員選書



今月は**武田利明メディアセンター長おすすめ図書**をご紹介します。
紹介図書は8月末まで、3階新聞コーナー横の図書紹介コーナーにて
展示します。

武田メディアセンター長から、図書に対するコメントも頂きましたので、こちらもぜひチェックしてみてくださいね。

1. 『寺田寅彦全集』 寺田寅彦 著

センター長のコメント

大学での学生時代に夢中で読んだ本です。物理学者ですが普段の日常生活の状況や風景などについて随筆風にわかりやすい表現で書かれており、科学することの楽しさが自然に読みとれます。

茶わんの中に注がれたお湯を観察して地球で起こっている自然現象を解説している『茶わんの湯』は特に有名です。

2. 『The Story of My Life』 ヘレン・ケラー 著

『障害は不便だが不幸ではない』などの名言を残したヘレン・ケラーの自伝。三重苦(deaf, blind, mute)である筆者の英文を読んで感銘しました。英語が苦手な学生の教材(副読本)としてもお勧めです。

3. 『私は赤ちゃん』 松田道雄 著

人間の成長過程と子供の無限の能力を理解できる本です。母の日や父の日の前に一度読んではいかががでしょうか？

4 『新折々のうた』 1 大岡信 著

短い文章に秘められた作者の思いを感じとることができる本です。『握力計の知らざるちから身にありて4Bの鉛筆に文字現わるる』などから、仕事などで落ち込んだときにパワーをいただきました。

5 『細胞のはたらきがわかる本』 伊藤明夫 著

生命現象についてはものすごい勢いで解明されていますので、それらを理解するためにはお勧めの本です。専門的な知識は必要ありませんので。

6. 『朽ちていった命』 NHK「東海村臨界事故」取材班 著

我々の身体には特に意識されることはなく生命を維持するために一生懸命に働いている細胞がたくさんあります。それらの細胞が致命傷を受けたときに、私たちの身体はどうなるのでしょうか？ 科学技術の進歩に潜む危険性について考える機会にもなります。

7. 『子どもと学校』 河合隼雄 著

企業戦士から教育職になった時に読んで多くのことを学んだ本です。学生の立場で読んで『教育』について改めて考えてみてはどうでしょうか？

8 『光る壁画』 吉村昭 著

病気の早期発見に威力を発揮している『胃カメラ』を研究開発した人々の物語です。新たな分野を切り開く(新製品を開発する)ためには、熱意とチームワークが特に重要であることを学ぶことができます。

9. 『健康・老化・寿命—一人といのちの文化誌—』 黒木登志夫 著

専門書に記載されている科学的なデータを活用して書かれている本です。健康的な生活をするための知識が得られます。引用文献もたくさん記載されていますのでオリジナルの研究内容についても知る事が出来ます。

特集2：遠野物語と民俗学



今年2010年は、『遠野物語』刊行100年目です。

『遠野物語』はもちろん、著者の柳田国男や民俗学に関連する図書もあわせてご紹介します。この機会に、民俗学について興味を持ってみませんか？

ふれてみるその1：遠野物語・柳田国男

1. 『遠野物語へようこそ』 三浦佑之、赤坂憲雄 共著

2010年2月28日の読売新聞に、科学哲学者である野家啓一の書評が掲載された、遠野物語を楽しむための入門書。

2. 『遠野奇談』 佐々木喜善 著、石井正己 編

柳田国男に遠野の民話を語り、『遠野物語』発行のきっかけを作った佐々木喜善の著書。

3. 『柳田国男と文学』 相馬庸郎 著

代表作として著名な『遠野物語』のほか、『海南小記』『雪国の春』などの著書と柳田国男について記載。

柳田国男 (1875-1962)

兵庫県神東郡田原村(現姫路市)出身の歌人・民俗学者。

1908年、友人であった水野葉舟の紹介で、遠野出身の佐々木喜善と交流を持ち、佐々木が語る民話に興味を持つ。翌年自ら遠野を訪れ、1910年に『遠野物語』を著した。

今月の参考文献

- ・『柳田国男の民俗学』 福田アジオ 著／1992 (4階開架 380.1:フ)
- ・『柳田国男：その生涯と思想』 川田稔 著／1997 (4階開架 380.1:カ)
- ・『日本大百科全書』 小学館／1994-1997 (3階参考図書コーナー R031:ニ)
- ・『世界大百科事典』 平凡社／1988-1988 (3階参考図書コーナー R031:セ)
- ・『民俗学がわかる。』 朝日新聞社／1997 (4階開架 380.1:ミ)
- ・『都市とフォークロア』 宮田登 著／1999 (4階開架 384.2:ミ)



ふれてみるその2：民俗学

「民俗学」・・・「世界の文明民族の国々で、自国民の日常生活文化の歴史を、民間伝承を主たる資料として再構成しようとする学問。」
(世界大百科事典より)

なんだか難しそうな説明ですが、見聞きしたことのある事柄はきっと多いのではないのでしょうか。まずは1冊、手に取ってみてください。

1. 『十二支考』 上巻・下巻 南方熊楠 著

干支の動物(牛を除く)についての説話をまとめた著書。ご自分の干支の動物についての本、開いて見ませんか？

2. 『妖怪都市計画論：おばけからのまちづくり』 斎藤次男 著

「妖怪」と「まちづくり」。一見、何のつながりも見えてこない2つのキーワード。どんなつながりがあるのでしょうか・・・？

3. 『世界の民話 イギリス』 小沢俊夫 編

日本に民話があるように、世界各国にも民話がある！『世界の民話』シリーズ、揃っております。

開館カレンダー

7月～9月は期末試験と夏季休業のため、開館時間が変動します。
詳しくは下記の開館カレンダーをご確認ください。

■ 9:00-21:00 ■ 9:00-17:00 ■ 施設開放日 9:00-17:00 ■ 休館日

2010年7月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2010年8月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2010年9月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

